



JIC インフォメーション

第 151 号 2008 年 6 月 10 日

年 6 回 1・2・4・6・9・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F

TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 フェアステージ大手前ビル 5F

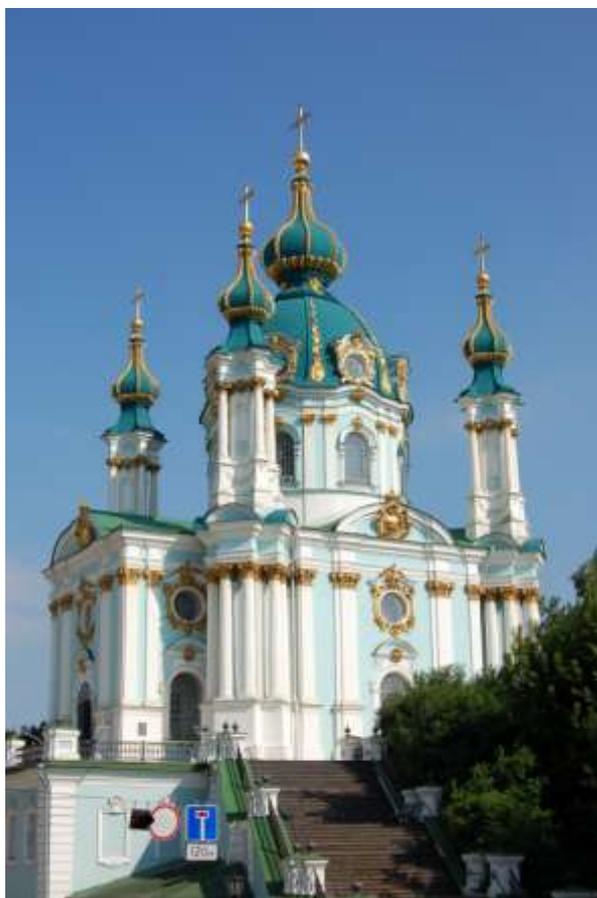
TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連
国際交流誌

JIC は頑張る人を応援します!



<http://www.jic-web.co.jp>



< ウクライナの風景 >

「ロシアでサッカーの夢を観に」 相澤 進之助・・・2-4P

「ジャリリ記念タタール国立オペラ劇場」

加藤 裕理・・・6-9P

「ウクライナ訪問記 前編」永富 文彦・・・10-11P

ロシアバレエ・オペラ公演情報・・・12-13P

ペンパル情報・・・14P

J I C イベント報告・・・15P

J I C 情報・予定・・・16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会) 会員を募集しています。
年 6 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

ロシアでサッカーの夢を観に

～旅のお供にアドレナリン～

JIC 東京 相澤 進之助



旅立ちはいつもせわしない。こと今回の旅行については出発前の1週間は指折りに忙しかった。

5月12日夜のこと、「来週例の試合に行かないか？」JICのサッカー好き先輩Hさんからの突然の誘いは、まさに青天の霹靂(へきれき)。例の試合とは、UEFA(欧州サッカー連盟)チャンピオンズリーグ(以下CL)の決勝戦である。1955年に始まり、今年で53回目を数える欧州クラブ界最高峰の大会の決勝が、史上初めてロシアで5月21日に行われる。H先輩がモスクワの知り合いに手を回してそのチケットが2枚手に入ったのだ。スケジュールをなんとか調整、4日間の日程を確保した。

2泊4日。なかなかの「弾丸ツアー」だ。モスクワへは留学していた2003年以来5年ぶりの渡航になる。出発日は朝5時の徹夜明け。あいにくの豪雨の中の出発になったが、アドレナリン全開に旅が幕を開ける。

★1日目(5月20日)

今回は、往復とも中国国際航空で成田から北京経由で向かう。往路モスクワまではHさんと一緒に旅路だ。

北京までの機内でまわりを見渡すとロシアのガイドブックを持っている人、モスクワやCLの話をしている人がいる。どうやら、モスクワ行きの搭乗者で固められている様子。

北京に到着。五輪むけに新設された空港第3ターミナルに降りたつ。莫斯科(モスクワ)行きに乗継だ。乗継入国審査を通過し、ゆっくりする間もなく乗継時間になる。Hさんに続き、機内に入ろうとしたその時！搭乗口で突然止められる私。搭乗券の座席番号が書き換えられ「CHANGE,UPGRADE」と係員の一言。何事かと思いきや、私だけがビジネスクラスに変更になったのだ。係員に理由を聞いたが答えてくれない。同行者と離れても関係ないらしい。先輩とは別々になるがラッキーなプレゼントと考え、一人ビジネス席に着く。

中国国際航空のビジネスクラスはゆったりしていて寝るには快適そうだ。出発前の睡眠不足から解放され、ぐっすり眠

れると思いきや、それは周りの搭乗者にも左右されるものだと思知らされることとなる。離陸して40分。機内で昼食が配られる。ビジネスではトレーにはではなく、皿に盛られて食事がでてくる。ワインを飲みながらビーフステーキを食し、空のレストランをすっかり楽しんでいると、ふと気が付く。左窓側にいるのはマルディーニ！その隣にはマッサーロが！その前の席にはダウンガが！サッカー好きにはおなじみのビッグ



<ビジネスクラスの食事>

グネームのそっくりさんが集って、酒盛りを始めたのだ。話に耳を傾けると、どうやら彼らは香港在住のイギリス人。故郷のチームが大一番に臨むとあって、いてもたってもいられずにくり出した様子。そこ

から到着までビジネスクラスは修羅場と化した。酒盛り英国人は、飲んで歌って、また飲んで、騒ぎ続けたあげく、客室乗務員に絡む始末。数時間後、まだワインを要求する彼らに客室乗務員がしびれをさらし一言「NO!」。「いいかげんにしなさい」と言わんばかりの口調で飲むのをやめさせようとするが、興奮状態の彼らは何も聞かず…。ワインがないならウイスキーと言いだし、やりたい放題。しまいには、まわりの乗客にも絡み始め、自分にも来るかも…と思っていた矢先、着陸態勢にはいるというアナウンス。結構散々な目に遭い、ラッキーだったのかどうなのか不明なフライトの8時間はあっという間に経過し、モスクワに到着した。

モスクワだあ！喜びが湧き上がる。そんな嬉しさもつかの間、到着後の入国審査の状況にあ然とさせられる。長時間のフライト後に待っていたのは、長蛇の列ならぬ、長蛇の缶詰。ロビーが入国審査の順番を待つ人で溢れ、だんご状態だったのだ。見渡すとサッカーのユニフォームを着た人が多数見られ、大イベントの影響を早速実感。結局入国ができたのは2時間半後だった。

ようやく空港の外に出たのは21時頃だったが、外は結構明るい。ガイドのイーゴリさんの送迎で22時頃ホテルへ到着し、早速夜の肴を買い出しに出かける。近くにも24時間キオスクみたいなのがあり、遅い時間でも困らない。ホントに

便利な世の中にロシアもなってきたんだなあとしみじみ思う。ロシアのポテトチップスをつまみにロシアンビールメーカーの代表:バルチカ社の7番プレミアムを飲む。うまい!最高!味が濃いロシアの”ポテチ”は、あっさり味のビールとバランスがよい。

東京を出て24時間、長い1日だった。ビールに刺激されたのか(?)自然とまぶたが重くなり、1日目の夜は更けるのだった。

★2日目(5月21日)

この日は活動的に朝がはじまる。朝食をしっかりと、まずはJICモスクワ事務所に顔出し。そのあとイズマイロヴォ公園のそばにあるヴェルニサーシュ、アルバート通りに観光に出かける。どちらも私が留学していたときによく徘徊した思い出



<スターバックスコヒー>

の場所だ。イズマイロヴォでのお土産の仕入れに満足し、意気揚々とアルバートへ。モスクワにもスターバックスコヒーがついに進出した。現在市内に3軒あり、そのうちの一つがアルバ

ート通りにあるのだ。目的は一つ。大人気で売り切れ続出と話題沸騰のマトリョーシカ版タンブラーを手に入れること。結果は残念、売り切れだ。またの機会に持ち越し。

午後6時。JICモスクワのYさんと、その知人である日本企業の現地駐在員さんと合流。4人で「一番星」という日本食レストランで腹ごしらえ。アサヒビールで乾杯し、焼うどんに親子丼、カツ丼で舌鼓、つまみは枝豆。その日は売り切れていたけどスルメイカなんかメニューにある。店内では平井堅などのJ-POPが流れており、日本にいるのと変わらない。時差ボケの影響か、食事中たまにまぶたを重くしながらも、今夜のために日本食でテンションをあげる。

地下鉄でスタジアムへ。会場の最寄り地下鉄駅はスパルチーブナヤ駅。我々はその3つ隣から乗車したが、そこからの光景は圧巻の一言。車内はイングランドのサポーターで埋め尽くされ、応援歌の大合唱。駅に到着しても、ホームから外にまで響き渡る歌声、本場さながらの雰囲気、大興奮だった。スタジアムに到着



しても、サポーターの大合唱は止まらない。むしろ、それ以上だ。異様な熱気に包まれた雰囲気、圧倒される。試合前の開催セレモニーがはじまる。アンセム(試合前の選手入場の際に演奏される楽曲)が流れ、アドレナリン大放出!出場選手、それから試合に立ち会う者全ての気持ちが高揚し、会場のボルテージはぐんぐん上昇する。まさに「H E T C Л O B(言葉に言い表せない)」、それがぴったりの表現だ。本当に言葉はいらなかった。表現のしようがない、そんな素晴らしい場に酔いしれるのみだった。



私の席の右隣に親子がいた。子どもは6歳くらいの男の子だった。モスクワで起きた一夜の夢は、きっとこの子の胸に深く強く刻まれたに違いない。

モスクワ時間の午後10時45分試合開始。決勝という大舞台に選手も気持ちが入って、白熱の内容で試合は進化した。そのすさまじい攻防にもかかわらず、時差ボケの影響が再び私たちを襲う。まぶたの重みとも戦いながら、激しい雨の中、90分の試合時間が延長+PK戦に突入するというおまけつきで、本当に長い長い150分の試合をたっぷり堪能した。

帰り道、スタジアムから地下鉄駅方面まで、警察官が手を取り人間鎖を作っている。今日は朝4時まで地下鉄は運行している。国際試合では恒例の光景を横目に、我々は道を外れ、白タクを拾いに大通りへ。すると途中、停留所への順番待ちをする何十台ものバスに遭遇。なんとも朝3時には似つかわしくない光景だ。ふとその中の一台に目をやると、車椅子マークのあるバスが。ロシアも進歩していることを実感。タクシーでホテルに帰り、4時近くに就寝。長い2日目もやっと終わった。

★3~4日目(5月22日、23日)

今日はまだ帰る日だ。あつという間だった。

8時ごろ起床。昨日とほぼ同じメニューの朝食を食べ、午前中は唯一心残りのマトリョーシカ版タンブラーを手に入れるべくシェレメチェボ空港から車で20分くらいのところにあるスターバックスへ向かう。しかし、ホテルから片道1時間かけて行ったのに、結果は再び残念。噂どおり、今度いつ再販されるか店員もわからないということだった。

仕方がない、ホテルへ戻りチェックアウトをする。それから私は現地取引先の会社に立ち寄りシェレメチェボ空港に向

かう。目的地が違うHさんとは地下鉄で途中まで一緒に行き、お別れだ。

地下鉄に揺られ30分で到着。昼食をごちそうになり、帰る時間が近づく。取引先が予約してくれていたタクシーで空港へ向かう。実はその取引先が入っているホテルでタクシーをつかまえようと最初は考えていたのだが、それはとても甘かった。試合が終わって自国へ帰る人たちがたくさんおり、タクシーがみんな出払ってしまっていたのである。取引先が気をきかせて予約時間を早めにしてしてくれたおかげで、大渋滞につかまりながらも裏道を進んで走ること 2 時間、予定より40分ほどの遅れで無事空港に到着した。大人数のサポーターに囲まれながら、チェックインする。帰りはぐっすり機内で過ごし、途中北京空港の免税店で紹興酒を入手して、成田に到着。旅は幕を閉じた。

高層ビルが次々と建てられ、めまぐるしく変化していると噂のモスクワを想像しながらの、久方ぶりの訪問ではあったが、思い出が詰まったイズマイロヴォとアルバート通り周辺は5年前とほとんど変わらない姿をみせてくれたことが、とて



＜決勝戦会場のスタジアム＞

もうれしく、心に残った。
皆さんはご存じだろうか。今オーストリアとスイスでは共催でユーロ(欧州サッカー選手権)が開かれているが、ロシアは今チャンピオンズリーグ決勝戦をステップに、ユーロ2020年大会の開催を目指しているのだ。(受け入れにはスタジアムの数が圧倒的に足りないので、今回のユーロのようにロシアも他国(ウクライナとか)との共催を視野にいれることになりそうだが)。そのころロシアはいったいどんな風になっているのだろうか。その間、2012年ウラジオストクでのAPEC、2014年ソチでの冬季五輪なども予定されており、大きなイベントが目白押しのロシアから目が離せない。2020年、ユーロ大会が開催される折にはまた立ち会おうと心に誓った。サッカー好きの楽しみは尽きない。

JICは頑張る人を応援します!

旧ソ連関係のイベント案内掲載をご希望の方は JIC までご相談ください。イベント時期の約 2 ヶ月前に情報をお送りください。JIC インフォメーションの発行は、1・2・4・6・9・11月の6回となります。

掲載内容が JIC の活動に合わない場合はお断りする場合がありますのでご了承ください。

新潟県中越沖地震チャリティー バレエガラコンサート



＜公演予定＞

奈良	8月24日(日)15:00	なら 100 年会館
新潟	8月27日(水)18:30	新潟テルサ
桶川	8月30日(土)17:00	桶川市民ホール
東京	9月1日(月)18:30	新宿文化センター

主催:アーツ企画 TEL:080-1279-7709

共催:ジェーアイシー旅行センター株式会社

ウチイケ鍼灸整体院

後援:在日ロシア連邦大使館

ロシア国際文化科学協力センター、チャコット

奈良ロイヤルホテル、新潟グランドホテル

お問合せ先:arts_planning_2008@yahoo.co.jp

※この収益金の一部は、2007年7月に起きた新潟中越沖地震の被害義捐金として日本赤十字に寄付されます。

未来のスター達がやってくる!!

ワガノワ・バレエ・アカデミー

創立270周年記念日本公演

＜公演予定＞

7月19日(土)15:30	新宿文化センター
7月22日(火)15:00	神奈川県民ホール
8月02日(土)18:00	Bunkamura オーチャードホール
8月03日(日)16:00	ティアラことう

270年の歴史を誇るロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミーはロシアのクラシックバレエの源泉と言われています。ロシアを代表するマリンスキー(キーロフ)・バレエ団やポリショイ・バレエ団のダンサーの多くが同アカデミーの卒業生であることが、その最大の理由です。これから未来のスターとして羽ばたいていく卒業生から常にプロの意識を持つよう育てられている小さな学年の生徒たちまでワガノワならではの魅力を十分に堪能できることでしょう! 演目は、《海賊》より第3幕、《パキータ》、そして《ガラ》です。これもワガノワならではの演目です。

予約・お問合せ先:チケットスペース 03-3234-9999

神奈川芸術協会 045-453-4080 (7/22 公演)

※5歳未満の入場はご遠慮ください。

※音楽は特別録音によるテープを使用します。

ロシア文化フェスティバル2008 IN JAPAN

ロシア民族工芸展

マトリョーシカ★伝統柄から作家ものまで、ロシアで作られた多様なマトリョーシカが登場。なかには、40 個組の豪華版もあります。

ロシアビーズ★ビーズを編んだアクセサリが並びます。リボンや樽型モチーフをつないだボリューム感たっぷりのネックレスは、ロシアならではのデザインです。

ボビンレース★ロシア伝統の模様を編み込んだレースは額に飾ります。ドレスやショール、ブローチなど、身につけるものも数多く出品されます。

※展示品は即売されます。

日時:2008 年 7 月 24 日(木)~30 日(水) 入場無料

11:00~18:00(最終日~15:00)

オープニングパーティー:24 日(木)13:00~14:00

会場:Gallery Concept 21 (ギャラリーコンセプト 21)

〒107-0061 東京都港区北青山 3-15-16

TEL & FAX : 03-3406-0466 (画廊)

コーディネーター:ガリーナ・ドウトキナ

主催:ロシア文化フェスティバル組織委員会

ロ日協会 ロシアン・アーツ

後援:在日ロシア大使館



サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団

チャイコフスキー・フェスティバル

指揮:テミルカーノフ / 770歳記念



巨匠テミルカーノフ / 老舗サンクトペテルブルグ・フィル。
ロシア最高のコンビで贈るチャイコフスキー。

<公演予定>

11 月 3 日(月・祝)14:00 サントリーホール

19:00 サントリーホール

11 月 4 日(火)19:00 サントリーホール

11 月 5 日(水)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

11 月 10 日(月)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

主催:梶本音楽事務所

後援:ロシア連邦大使館

協力:株式会社 BGM JAPAN

ユニバーサルミュージック株式会社



◆チケットのお申込み◆

カジモト・イープラス TEL:0570-06-9960

<http://kajimotoeplus.com/>

ロシア政府認定 ロシア語検定試験

試験日:2008 年 11 月 8 日(土)~9 日(日)

場所:札幌大学キャンパス内

願書受付期間:2008 年 9 月 1 日(月)~

10 月 17 日(金) 必着

受験料:未定(ロシアの試験本部より通達があり次第決定)

「ロシア語検定試験」はロシア政府に公認され、全世界で行われている検定試験です。願書は札幌大学ロシア語学科の HP(<http://www.sapporo-u.ca.jp/gaigo/>)からダウンロードまたは下記お問合せ先にご請求下さい。

◆お問合せ・お申込先◆

札幌大学学生支援オフィス外国語学部

TEL:011-852-1181 丹野 tanno-s@ofc.sapporo-u.ac.jp

藤本 jun-f@ofc.sapporo-u.ca.jp

お知らせ

JIC インフォメーションの電子化について

日頃は JIC インフォメーションをご愛読いただきありがとうございます。今後は冊子版インフォメーションに加え、電子版インフォメーションの発行を進めたいと考えています。具体的にはメールアドレスをご連絡いただければ、PDF 形式でダウンロードできるように毎号発行時に案内メールをお送りいたします。

本年 9 月 10 日発行予定の第 152 号(次号)からメールでの送付を本格的に開始する予定です。ご希望の方は、E-mail アドレス「jictokyo@jic-web.co.jp」にご連絡ください。件名を「インフォメーション」とし、①お名前、②ご住所、③お電話番号、④メールアドレス に電子版インフォメーション希望の旨を書き添えてお送りください。よろしくお願いたします。



ジャリリ記念タタール国立オペラ劇場

Tatar State Academic Theatre of Opera and Ballet named after Musa Dzhaliil

加藤 裕理

ジャリリ記念タタール国立オペラ劇場は、モスクワから東方に約 800 キロのところにあるロシア連邦タタールスタン共和国の首都、カザンにあるオペラ劇場です。タタールスタン共和国の直接の起源は、13 世紀末にロシアに攻め入ったモンゴル系遊牧民族・タタール人。もともとヴォルガ河に臨む交通の要衝ということもあり、カザンは現在ロシア有数の工業都市となっています。

連邦とは大雑把に言うと独立性の高い地方自治体の集合体なので、カザンはロシアの地方都市であると同時に、共和国の首都でもあります。こうした共和国の中でもタタールスタ



ンはトップクラスの経済水準にあるので、一口に「ロシア地方都市の劇場」といっても、このタタール国立オペラは特に財政面で他と違った基盤を持つと言えるでしょう。

そのタタール国立オペラ劇場の略歴をご紹介しますと、創立は 1939 年なので現在 69 シーズン目。今の建物になったのは 1956 年、その翌年に

国民的詩人であるムーサ・ジャリリ記念とし、1988 年にアカデミーの称号を付与されました。

近年の目立った功績としては、「ユスフェの物語」(音楽:レオニード・リュボフスキー/振付:ゲオルギー・コフトゥン、ニコライ・ボヤルチコフ)で文化・芸術部門での 2005 年度ロシア国家賞を受賞、また「くるみ割り人形」でオランダのテレビ局 Channel AVRO2 が主催する 2005 年度“ベスト・ステージ・プロダクション”のグランプリ獲得などが挙げられます。

こうした劇場の躍進は、劇場総裁であるラウファル・ムハメトジャノフ氏によるところが大きいとのこと。1981 年にそのポストについてから、彼はシャリヤーピン記念オペラ・フェスティバル('82 年～)、ルドルフ・ヌレエフ記念クラシック・バレエ・フェスティバル('87 年～)という 2 大イベントを軌道に乗せました。また、ソ連崩壊後はいち早く海外に活路を見出し、近年は年間約 150 回の本拠地カザンでの公演をこなしながら、年間 130 回以上の公演を海外で行っています。その海外遠征先は以下の通りです:オランダ、ドイツ、ベルギー、スイス、オーストリア、ポルトガル、スペイン、フランス、ノルウェー、デンマーク。

と、これだけ書くとドサ回りのツアーリング・カンパニーかと思われるかもしれませんが、実際は毎年のように同じ都市をまわる恒例行事となっていて、各地との信頼関係も深いそうです。

日本ではほぼ無名のバレエ団なのですが、「カザンにはいい劇場がある」という話はロシアの劇場関係者からはよく耳にします。今回、タタールー日本文化情報センター《SAKURA》ディレクターを務めるアーシヤ・サディコワさんの協力のもと、このタタール国立オペラ劇場、特にバレエ団を中心に取材することが出来ました。結論からいうと、「日本ではほぼ無名のカンパニーなのに、そのレベルの高さにビックリ」です。白状すると、侮ってました…すみません(笑)。

リハーサル見学

丁度、2 日後の演目「シュラレー」のリハーサルをやっているということで、見学させていただくことができました。クラシカルな外観とうって変わって、劇場内はとってもし近代的、どこのオフィスビルかと思いました。基本 6 階構造で、リハーサル室は最上階だそうです。エレベーターも大きくてピカピカでした。

リハーサルは、予定されている公演で主役を踊る予定の 2 人によるものでした。女性がアレクサンドラ・スロジューエワ、男性がアルチョム・ペロフ、どちらもプリンシパル・ダンサーですが、女性の方はまだ若手で、13 日がこの役デビューだそうです。細かい振り、演技・表情を指導してもらっていました。途中からしか見ていませんが、約 40 分の間に、一幕のパ・ド・ドゥと終盤のパ・ド・ドゥ、をレッスンしつつ、スロジューエワの休憩中にペロフが 2 幕の祝祭の場で披露するソロをおさらい、という感じです。

実際このバレエ団のダンサーを観るのは初めてだったので、ドキドキだったのですが、まずビジュアル的にお 2 人ともキレイで一安心しました(笑)。踊りを見てからは、実はこのリハーサルの時点では、スロジューエワがプリンシパルにしては少し物足りないかな?と思っていたのですが、13 日の公演では良くなっていたので、これからは伸びそうです。

ペロフは日本人が見ても上手な部類に入ります。もともと私はついつい女性だけ見てしまう癖があるので、サ



ポート中心のパ・ド・ドゥを見ていた時は、筋力あるなあ〜くらいの印象だったのですが(それでも減点なくサポートできる人はそれだけで上手です)、ソロを見てレベルの高さに意表をつかれました。

男性的なパワフルさがあるダンサーですが、このむささが近年は貴重です(笑)。回転も跳躍もサポートもバランスよく上手で、難しいことをやってもキメがふらつかないダンサーというのはペテルブルクでもなかなかお目にかかれませんか。

リハーサル全体を通して温かい雰囲気、居心地が良かったです。教師とダンサーというよりも、先輩が後輩に自分の経験を伝える、という感じでした。ツアーが多いのですれているのかな?というここに来るまでの偏見も吹き飛んでしまいました。

レッスン見学

翌日は朝の 10 時から、団員全員のためのレッスンを見学させていただきました。この劇場はリハーサル室がとても大きくて、しかも明るく清潔な印象。

10 時からといっても、最初の 10 分はピアノ音楽に合わせて各自でウォーミングアップ。さすがにバレエ教室ではなくプロのバレエ団だけあって、レッスン・ウェアも色とりどり



です。以下、同席したヤコヴレフ監督の解説を織り交ぜながらご報告します。

レッスンの流れはどこでも一緒に、ここもまずはバーレッスンから。最初はプリエなどのゆったりとした負担の小さな動きからはじまり、次第にハードな動きになっていきます。レッスンを見れば見るほど、バレエってシステムティックに出来ているなあ実感します。バーレッスンだけで力量が見極められるほどの眼力はありませんが、それでも群を抜いてうまい人はさすがに目立ちます。ダンサーとしてのランクに近い人と付き合うことが多いのでしょうか、上手な人がごっそり集まる一角もあり、壮観です。

団員数は約 50 名ということで、それほど大規模なカンパニーではないのですが、それでも一般的に言ってこれだけの人数が集まってレッスンをするのですから、バレエ教師も一人一人に注意することはほとんどありません。そこがバレエ学校との一番の違いでしょうか。自分を客観的に見ることができないと、それ以上上達できないというのも頷けます。

バーレッスンが 40 分ほど続いた後はセンターレッスンです。アンシェヌマンという、レッスン用に振付けられた 15~30 秒ほどの短い踊りを数グループに分かれて行っていきます。当たり前ですが、センターになると目立つダンサーはより明

らかです。コールド・バレエ(群舞)もプリンシパルも一緒に踊るので、特に男性は力量の差が歴然です。

そんな感じで個人差はありますが、平均点は非常に高い印象です。プロのロシアのバレエ団のレッスンを見た経験がありませんので比較は出来ませんが、跳躍はみんなきれいに 180°開脚していました。ポリショイ、マリンスキー、ミハイロフスキー(レニングラード国立バレエ)がロシア・バレエの基準となっている日本のバレエファンの方には当たり前!と思われるでしょうが、実はそうでないバレエ団の方が多いので、感心してしまいました。

タタール劇場とはいっても、カザンのバレエ学校出身者と外部出身者の団員比率は約半々ということで、外見を見る限り「ちょっとアジア系の多いヨーロッパ・ロシアのバレエ団」です。なお、カザン以外ではカザフスタン、ペルミ、モスクワ、ヴォロネジ、サンクト・ペテルブルクのバレエ学校出身者が多いとのこと。バレエ団監督が招聘会社と商談を成立させるツボを心得ているので、積極的に国際コンクールに出場させて実績を積ませている様子。私が見ただけでも 3 人の男性団員がコンクールの準備中でした。

「シュラレー」公演鑑賞

タタールの民話をバレエ化した作品なので、まさにご当地バレエです。ヤコブソン改訂版だそうですが、フォークロアの土っぽさと、彼のほんのりダサイところが上手く調和して、迫力がありました。衣装はともかく、装置はとても気に入ったし、フォークロア・ショーありで楽しめました。

今や非常にマイナーな作品なので、大雑把なあらすじを。タタール版「白鳥の湖」というか羽衣伝説というか、鳥の姿をした悪魔・シュラレーからビルティール(村の若者)はシュンビケ(鳥の姿をした女の子)を救い出して嫁に迎えるけれど、彼女はシュラレーに奪われたままの翼が気になって上の空。そこへ再びシュラレーが現れてシュンビケをさらってしまったので、ビルティールは森へ追いかけていき、シュラレーを火にくべて撃退、翼も取り返す。シュンビケを思いやって彼は翼を彼女に返すけれど、シュンビケは愛するビルティールと一緒に暮らすために翼を捨てる、というお話。バレエにしては男が誠実かつ強い、ということで非常にいい話です(笑)。そして悪の親玉シュラレーが意外とお茶目さんでした。

アレクサンドラ・スロジューエワはテクニク的には並なんだろうと思います。この日がシュンビケの役でのデビューだったそうで、前半は特に硬かったのですが、ラストのパ・ド・ドゥは良かったです。可憐な雰囲気がある、かわいらしいダンサーです。

一方ベロフは地方劇場離れたダンサーでした。力強い踊りだし、大技をやってもふらつかないのがアカデミックな印象。彼だけではなく、「タタール」という響きそのままに、

このバレエ団はビックリするくらい男性陣が充実しています。シュラレー役のサヴジェーノフも巧みだったし、「火」を踊ったヌラン・カネトフはナヨナヨ系かと思いきや(ロシアのバレエ雑誌で写真は何回か見ていたので)キレが良くてパワーもありました。

男性陣に限って言えば、ミハイロフスキー劇場の上を行くかな?と思います。日本では無名のカンパニーなのですが、タートルスタン自体が豊かだし、ヨーロッパ・ツアーを定期的に行っているのだから労働条件もトップクラスだそうで、いいダンサーを集めやすいんだそうです。

「シュラレー」主演インタビュー

「シュラレー」で主演を踊られたアレクサンドラ・スロジェーエワさんとアルチョム・ベロフさんに、公演後、インタビューをお願いしたところ、お 2 人と



もとても感じの良い方で、快く応じて下さいました。そして実際お話を伺ってみると、お 2 人ともとてもお話し上手で、面白いお話をたくさん伺いすることが出来ました。

◆アレクサンドラ・スロジェーエワさんへのインタビュー◆

-まずは「シュラレー」のシュンビケ・デビューおめでとございます。

ありがとうございます。普段は「くるみ割り人形」のマーシャ、「バヤデルカ」のニキヤ、あとは「ジゼル」など、主なクラシックはほとんど踊らせてもらっているけれど、「シュラレー」はフォークロアの要素があって、とっても面白いバレエだわ。それに私の個性にも合うと思うの。いきいきとして身近って言った方がいいのかしら、踊っていてとても体になじむ感じ。

-少し「白鳥の湖」に似てると思ったのですが…。

そうね、共通点はあると思うわ。でもオデットは白鳥で、どこか不安そうな囚われの存在だけど、シュンビケは…具体的になんていう鳥かは知らないけど…森の中を自由に飛ぶ小さな鳥という設定なのよ。でも基本的に似てるわね。

-初めて「シュラレー」も観ましたが、最後のパ・ド・ドウがとても気に入りました。「白鳥の湖」は全てが優雅でなければいけないけれど、こちらはとてもかわいらしくて。

女の子らしさがあるでしょう?でも今ここで上演されているのは短縮版なの。ソロもいくつかカットされているし、それ以外にも振付にいくつか変更があるし。違う鳥のように描かれているから、もしかしたら元のバージョンの方が好きっていう人もいるかもしれないわ。

-このバレエ団は海外遠征がとても多いですが、それはあなたがこのカンパニーを選んだ理由に含まれますか?

それもあるけど、一番の理由はレパトリーが広いこと。他の劇場にはちょっとないくらい充実しているし、毎年プルミエ(新作披露公演)もあるでしょう。だから劇場側の「私と一緒に働きたい」というオファーは、私にとっても嬉しいものだったの。それで今日こうして「シュラレー」を踊れたわけだし。

-では、あなたにとってここはいい職場?

基本的にそうね。今後悔していないもの。劇場側との関係も上手くいっているし、労働条件も(他劇場に比べて)恵まれているほうだと思うわ。もちろんツアーが多くてすごく忙しいから、自分の赤ちゃんにさえなかなか会えない時もあるけれど(笑)。

-ご結婚なさってたんですか。

ええ、今日シュラレー役を踊ってたルスラン・サヴジェーノフが私の夫。息子は今 2 歳半で、ドゥラートっていうのよ。ドゥラートっていうのはカザフスタン風の名前ね。ルスランがそうしようって言ったの。

-あなた自身カザフスタンの出身だそうですが、里帰りする時間もなかなかないのではありませんか?

いつも夏にカザフスタンに帰るようにしています。それ以外にも仕事の合間とか時間を見つけて連絡を取るようになっています。シュンビケがタートルの人里で暮らすようになったみたいに、今度は私がカザンで暮らすようになったというわけ。国民性なのかしらね(笑)。

-カザンという街は気に入ってますか?

ええ。とても穏やかで住みやすいわ。モスクワのバレエ団からもいくつかオファーがあったんだけど、モスクワは活気がありすぎというか、時々静かな場所が恋しくなるから…。ここはアルマ・アタ(カザフスタンの首都)とも似ているし、もちろん故郷の陽気が恋しくなることもあるけれど、ここに来て 6 年になるからもう慣れたわ。

-これから先、どういう役を踊ってみたいですか?

そうね…「 Coppélia 」。この間(2007 年 10 月)のプルミエで踊りたかったんだけど、選ばれなくて…(※シーズン制をとっていないロシアではプルミエの公演数が限られるため、準備はしても実際デビューできるダンサーの数は少ないです)。でも来月ウラジーミル・アレクセーヴィチ(ヤコヴレフ/バレエ団監督)が来月スワニルダ(「Coppélia」のヒロイン)を踊ってみたいかって。

-「スパルタクス」は?(※今年7月にコフトゥン振付による初演が予定されています)

もちろん踊ってみたいわ!具体的な話はまだだけれど、少し変わったアダージュやソロを試してみないかということも内々に言われているの。今私はリリカルな役柄を踊ることが多いんだけど、エギナ(※「スパルタクス」に出てくる將軍の愛人役)とか、そういう役を踊って自分のレパトリーを開拓

したいという気持ちもあるし。ゲオルギー・アナトーリエヴィッチ(・コフトゥン)の振付けはとてもアクロバットだから、面白いと思うわ。

-背中が痛くなりませんか？(笑)

3 日間リハーサルが続くと全身痛くなるわよ！(コフトゥンは)私はリフトしやすいって言ってくれているけど、それでも彼の振付けるリフトの多くはバレエ学校では習わなかったものだから大変。男の子は精神的にもっと大変だと思うわ。

-今日は公演後お疲れのところ、ありがとうございました。

◆アルチョム・ペロフさんへのインタビュー◆

-公演お疲れ様でした。あなたはここタートル・バレエのプリンシパルとして海外遠征でも色々な役を踊っていらっしゃるようですが、バレエ学校卒業後、すぐにプリンシパルになったんですか？

まさか！最初はコールド・バレエ(群舞)としての採用でした。それからそれほど重要ではないソロを、次に目立つソロ…というように少しずつ階段を上っていった感じです。

-ではタートルスタン功労芸術家になったのは最近のことなんですか？

ええと…称号をもらったのは 6 年前のことなので 23 歳の時です。ここで踊り始めてもう 12 シーズン目になりますから。

-リハーサルを見学させていただいた時、跳躍が高く驚きました。踊り全般もとてもエネルギッシュで。昨日、公演の映像を見せていただいたんですが、あ、この人上手！と思うと大抵あなただったりで。「海賊」のビルバントとか、「ドン・キホーテ」の…

エスパーダですよね。キャラクター・ダンスは大好きなんです。親しみやすいというか、クラシック・バレエは自分にとってより難しいものなので。もちろん、「くるみ割り人形」「眠れる森の美女」「ジゼル」も踊っていますよ。

-キャラクター・ダンスの方が、より好きということですか？

ええ。私の父も母も兄も妹も民族舞踊をやっているの、環境ですね。私自身、イーゴリ・モイセーエフと彼のカンパニー(※モスクワに自前のアカデミーを持つ民族舞踊専門のカンパニー)が大好きなんです。

-あなた自身もカザンの出身だそうですが、幼いころからこのバレエはよく観ていたんですか？

バレエよりも、まずタートルの民族舞踊でした。父が民族舞踊アンサンブルを主宰していたので、もう民族舞踊が骨の髄まで染み付いています。タートルだけでなく、ロシアや世界各国の民族舞踊を子供のころから見ていたので、民族舞踊と共に成長したと言ってもいいくらいです。それに母がタートル人で、自分自身タートルの血が流れているので、タートルの文化そのものがとても身近に感じるし、愛着もあり

ます。今も劇場での仕事の合間に、父のカンパニーで教師をやっています。タートル舞踊の助けになればとも思いますし、何か新しい振付を探すように努力しています。

-タートルの人たちは運動能力が高い、という印象が個人的にあるのですが…。

ええ、まずタートル人の身体能力は高いですね。でもタートルだけではありませんよ。カザフスタン、バシキールスタン(ロシア連邦内の共和国)なども。特にバシキールスタンは同じモンゴロイドの血をひいていますから、国民性など似通ったところも多いです。

-特にカザンにはスポーツ関連の施設が多いですよね？

数は非常に多いですね！バスケットボール、バレーボール、スケート全般、ホッケーなど、基本的にスポーツが非常に盛んな街ですね。これはとてもいいことだと思います。

-あなた自身はなにかスポーツをやってみたいと思わないのですか？

今は特にしたいと思いません。私はもうダンサーで、脚に格別気を遣わなければいけませんから。でも小さいときはスポーツが大好きで、特にスケートが好きでした。バレエ学校時代はよく時間を見つけて遊んでいましたよ。バレエ学校側に隠れてこっそりと(笑)。

-バレエ学校はスポーツに反対だったんですね。でもスポーツの経験は、バレエにとっても助けになることもありますよね？

もちろん！ゼレンスキー(※マリンスキー劇場のプリンシパル・ダンサー兼ノヴォシビルスク・バレエの監督)がいい例です。彼も子供のころ陸上をやっていたんですよ。他にここタートル・バレエにもスポーツ経験者は多いです。ルスラン(・サヴジューノフ)も体操競技からの転向組ですが、とても跳躍が高いテクニシャンでしょう。とはいえ根本的にバレエとスポーツは違いますから両立することはできません。筋肉のつけ方も全く異なりますし。スポーツマン体型のバレエ・ダンサーなんて変でしょう？でももちろん、特に技術の面では小さい頃にスポーツで身体能力を磨いておくことは有利に働くと思います。

-あなた自身は民族舞踊によって身体能力を磨いていたということですね。今度の「スパルタクス」初演ではスパルタクスを踊ると伺いましたが…。

彼の舞踊言語はとても複雑で、踊る側としては非常に過酷です(笑)。でも観客が彼の振付を喜んで下さるのは、私にとってもとても嬉しいことなんです(※コフトゥンはこのバレエ団のために「ペール・ギュント」「ユスフェの物語」の 2 作を振付けていて、特に前者はカンパニーにとって重要なプロダクションになっています)。今はまだリハーサルも始まっていないのですが、プルミエ(新作披露公演)は 7 月の予定です。よろしければ是非観にいらしてください！

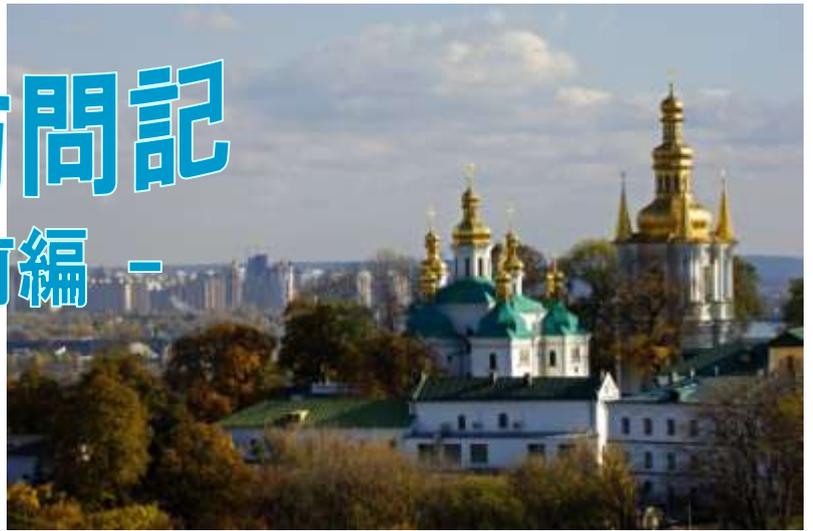
インタビューご協力ありがとうございました！

ウクライナ訪問記



JIC 大阪 永富 文彦

- 前編 -



さて、問題。

Q-「ボルシチ」「コサックダンス」といえば？
どこの国？

A- ロシア



では、ありません！！

残念ながら、日本人の大多数がそう答えてしまうでしょう。ではいったいどこの国？

正解は「ウクライナ」。

ボルシチ(borsch)はスラブ語で「ビーツ(≒赤カブ)」の意味をもつ、ウクライナ発祥の伝統料理。そして、コサックダンスは、15 世紀、キエフ大公国の士族を中心とした団(コサック)が、戦勝を祝う酒宴の席で、酔っ払って始めた踊りで、その後、農民の中で祝宴の踊りとして普及したものだ。ちなみに、「コサック」という言葉は、当時キエフ公国が貴族としての権利が認められなかったこともあり、「社会を離れた者」という意味のトルコ語から来たのだそう。んー、まさに日本社会でのウクライナの知名度としては「コサック」状態か・・・。

そんなことではいけない！というわけで、今回はウクライナを紹介。

先日、旅行会社社員を対象とした「FAM トリップ(海外の旅行会社からの招待旅行)」で、5 月 23 日～30 日までの 8 日間ウクライナを初訪問。訪問地は、首都「キエフ」と黒海そばのリゾート地「ヤルタ」。仕事とはいえリゾート地と言われる場所にいけるのは楽しみだった。

◆1 日目:5 月 23 日(金)

出発は成田空港からアエロフロートロシア国際航空。ウクライナに渡航する場合は、残念ながら、ウクライナの航空会社の日本乗り入れはまだ無いため、ほとんどの人がこのアエロフロートを利用している。モスクワで同日乗継ぎをし、キ

エフへ到着。

モスクワまで 10 時間+キエフまで 1 時間半のフライト後、到着は 22:30。夜遅いにもかかわらず、ボリスポリ国際空港内は、出迎えの人で活気づいていた。満面の笑みで出迎えてくれたガイドのインナさんと無事合流して、ホテルへ向かう。

空港からホテルへの移動中、すでに外は真っ暗。郊外道路を 20 分ほど走って、市街に入ると派手なライトアップ・イルミネーションの数々！誰もが知っているブランドショップだけでなく、ホテルの外壁やレストランの看板もキラキラ、キラキラ。世界の物価指標？と呼ばれるマクドナルドもちろんあるし、オシャレなレストラン、中には日本食レストランも燦々とアピール。そして一番目立つのがカジノの看板。あちこちにカジノがあり、これも独立後の市場経済の勢いか？と思いながら、ホテルへ到着。今日は、明日からのウクライナ観光に期待を膨らませながら、おやすみなさい。



◆2 日目&3 日目

さて、この 2 日間はキエフの観光スポット巡り。と、その前にちょっと待った。あれ？寒くない。事前の天気予報では 22℃前後とは聞いてはいたものの、薄いシャツとジャケットで十二分な暖かさ。あいにく快晴とはいかないものの、通りを見ると T シャツ一枚の若者もいるほど。そんな街の活気に、不思議と心意気が高まりバスへ乗り込む。

「キエフの人口は約 300 万人。黒海へと流れるドニプロ(ドニエプル)川を挟んで西側に旧市街、東側に新市街からなり、かつては 9 世紀～12 世紀の約 300 年間にわたりキエフ大公国(ロシア発祥の地)の首都ルーシとして繁栄しました・・・」とガイドの説明が始まる。

約 300 年間という時代は違うけど、徳川幕府と同じくらいか、9-12 世紀というと日本では平安時代くらいで、空海

や最澄さんの時代だな、最澄＝比叡山＝延暦寺と高校時代に公式のように覚えたなあ・・・と考えていた矢先、「・・・では、ウクライナの比叡山につきました」とガイドの一言。



は？と一瞬耳を疑ったが、確かに「比叡山」と言ったそこは、ウクライナの世界文化遺産のひとつ『ペチェールスカ大修道院』だった。比叡山が平安仏教として、日本仏教に強い影響を与えたように、その同じ時期、ここは、キリスト教(ロシア正教)の大修道院として、キエフ大公国の宗教・文化に強い影響を与えた場所なのだ。

現在はロシア正教ウクライナ支部の総本山となっているこのエリアは、約 7 キロにわたる城壁で囲まれ、じっくり回ると半日以上はかかるといわれるほどの規模。「モスクワの見どころがクレムリンなら、キエフでの見どころはここです」という修道院専属ガイドの説明を聞きながら、奥へと進む。

奥へ進むと、もう一つの見どころ「地下墓地」がある。ここは当時の修道僧たちが掘り続けた地下洞窟があり、そこには僧たちのミイラが眠り、湿度・気温様々な条件によって、自然とミイラ化したという「奇跡」の場所。入場口で 3 グリブナ(≒70 円)を払い 20 センチほどの裸のロウソクを「素手で」持って入場すると、ひんやりした空気で、中はまるで迷路のように道がのびた中にミイラ化した僧がガラス張りの棺に納められている。敬虔な巡礼者が、十字をきり、そっとガラスに接吻をする姿がとても印象的だった。



その後、「アンドレイ坂」に移動。ここはお土産物売る露店が石畳の坂道にずらりと並び、歩行者天国のような状態になっている。観光客だけ

じゃなく、地元キエフの人たちも何か掘り出し物を探しに、あるいは暇つぶしに、デートに、と人の行き来が絶えない賑やかな場所らしい。土産物はロシアっぽいマトリョーシカだけじゃなく、薫？作りの手作り小物などもある。参加者の女性のひとりが、それを手に取って見ていると、露天商のおじさんが、言葉が通じないのもおかまいなし、「笑顔は言葉を越える」とい



わんばかりに、笑顔&ウクライナ語でひたすらセールストークしてくる。そしてついに笑顔は言葉を越えてしまい「毎度ありー」。

最後はキエフ市内から車で南に 40 分ほどの郊外プフィロホヴォという村にある、民族建築と生活博物館を訪問。ここは、古くは 17 世紀からのウクライナの伝統的な木造建築、教会、民家、庭園などが展示されている野外博物館。実際に到着してみると、広い広い！某ガイドブックでは、すべて回るには半日以上かかることだったが、まさに納得できる広さ。そして全体の雰囲気としては、まさに「日本の田舎の農村」という感じで薫ぶき屋根の木造建築がそのままに「ほっこり」とした味わいをももたしている。あいにく天気はイマイチだったが、地元の子供たちも社会科見学？で大勢来ており、ワイワイと楽しんでいる姿と緑の豊富な自然に囲まれると



本当にのどかな気分させてくれる。読みかけでウクライナまで持ってきた文庫「篤姫」をここで一日中読みふけりたくなあと思いながら、先を進むと、聞き慣れたメロディが……。なんと「さくら」だ。しかも日本語で。目を向けると、そこにはニコツとしながら歌と演奏を器用にこなすおじさんがパフォーマンスをしていた。どうやら、そのおじさんは、ウクライナの伝統楽器(木琴と琴を合体させたようなもの。名称忘れまして…(写真参照))を巧みに操り、訪れる外国人観光客の“ふるさと曲”をその国の言葉で歌ってくれるらしい。このノスタルジックな場にふさわしい演出家だなあ、と感心し、2 曲目「荒城の月」を聞いて、ピクニックは終了した。



これでキエフは終了。次は今回のメインの目的地、キエフからはるか南に黒海沿岸のリゾート地「ヤルタ」だ。ご存じ、ヤルタ会談が行われた歴史的意義の大きい街であり、また、チャーホフが晩年を暮した街でもある。様々なイメージ・期待を膨らませながら、キエフ発の寝台列車に乗り込む。

< 続 >

ジェーアイシー旅行センターではウクライナへの旅行も取り扱っています。詳しくはパンフレットをご請求下さい！

<http://www.jic-web.co.jp/>



草刈民代と名門バレエ団のソリストたちが繰り広げる夢の舞台

レニングラード国立バレエ - ミハロフスキー記念 -

華麗なるクラシックバレエ・ハイライト with 草刈民代

バレリーナとして世界で活躍する草刈民代が出演！

日本を代表するプリマ草刈民代が出演！

その気品ある華やかさと叙情的な表現は、他の追随を許さない。

レニングラード国立バレエの実力派ソリスト達とともに贈る華麗なステージ！

日本を代表するプリマ草刈民代が、レニングラード国立バレエの実力派ソリストと華麗なステージを繰り広げ、他の追随を許さない気品ある華やかさと叙情的な表現で夢の舞台をお贈りする。また、今回で 9 年連続となる草刈民代の夏休み公演へも最後の参加となることが決まった。ガラ公演で多彩なクラシック作品を踊る姿も見納めとなる。

ロシアといえば、有名バレエ・ダンサーを数多く輩出していることで知られている。特に今回ご案内するレニングラード国立バレエは、ロシア屈指の名門として 170 余年の歴史を持つ。日本では 20 年近くに及ぶ連続来日公演を果たし、「くるみ割り人形」「白鳥の湖」「眠りの森の美女」は年末年始の定番公演として、多くのファンに愛されている。

ぜひこの機会に、ロシア・バレエの世界に触れてみてはいかがでしょうか？

※演奏は特別録音テープを使用いたします。



◆**予定プログラム**◆

「レ・シルフィード」
「パキータ」 ほか

◆**予定出演者**◆

草刈民代、レニングラード国立バレエ

◆**公演日程**◆

9 月 2 日(火) 19:00 開演 ゆうぼうとホール
9 月 3 日(水) 18:30 開演 ゆうぼうとホール

◆**料金**◆

S 席 10,000 円、A 席 8,000 円、B 席 6,000 円

JIC インフォメーションをご覧になった方は

特別割引価格 A席 5,000円

にてご案内！！詳細は次ページにて！



ボリショイ、キーロフと並ぶ旧ソ連三大国立歌劇場の再来日！

2006 年の初来日公演で全国 10 万人を動員した歌劇場が、総勢 200 名で引越し公演！
プッチーニ生誕 150 周年に贈るオペラ史上最高傑作 2 演目と巨匠ヴェルディの大作を上演！

キエフ・オペラ - ウクライナ国立歌劇場オペラ -

「**トゥーランドット**」 滅亡した王国の王子は美しくも残酷なトゥーランドット姫の心を動かせるか。3 つの謎解き、犠牲そして愛。異国情緒溢れるプッチーニの大いなる遺作。

「**椿姫**」 巨匠ヴェルディが描いたヴィオレッタとアルフレードの純愛悲恋。

キエフ・オペラはボリショイ、キーロフ(マリインスキー)と並ぶ、旧ソ連三大国立歌劇場として世界にその名を知られている。同歌劇場のオペラ団が初来日したのは 2006 年。外来オペラとしては驚異の 60 公演を実施し、約 10 万人を動員。その圧倒的な人気を見せつけた。

今回はオペラの中でも最高傑作の一つとされるヴェルディの「椿姫」と、2 年前のトリノ五輪で一躍、その名を日本中に轟かせたプッチーニの遺作「トゥーランドット」をご紹介します！

◆**公演日程**◆

10 月 7 日(火)・8 日(水)・9 日(木) 18:30 開演 「椿姫」
10 月 10 日(金) 18:30 開演、11 日(土) 13:30、18:30 開演、
12 日(日) 13:00 開演 「トゥーランドット」

全公演、オーチャードホールにて

◆**料金**◆

S 席 18,000 円

特別割引価格 S席 16,000円

にてご案内！詳細は次ページ。

レニングラード国立バレエ

華麗なるクラシックバレエ・ハイライト & キエフ・オペラ

お問合せ・チケットのお求めは…

光藍社 (こうらんしゃ)

TEL: 03-3943-9999 E-mail: ticket@koransha.com

URL: http://www.koransha.com/

◆お申込み方法◆

◇チケットは、お電話または E-mail にてお申し込みください。その際必ず、**JIC インフォメーション**を見て**申し込ん**旨をお伝えください。お伝え頂かなかった場合は、特別割引価格は適用されません。

◇E-mail でお申し込みの場合、ticket@koransha.comまで、次の必要事項をお書き込みの上、お送りください。

1. お名前(ふりがな) 2. 郵便番号・ご住所 3. お電話番号
4. お申込公演名 5. 公演日 6. 開演時間 7. 座席の種類 (例: S 席) 8. 枚数

割引適用チケットをご希望の方は、JIC インフォメーションをご覧になった旨、お書き添えください。

◆注意事項◆

※お申込後、お取りした座席番号を記載した振込用紙をお送りいたします。ご確認の上、お近くのコンビニエンスストアにてご送金ください。

※入金確認後、チケットを送付いたします。チケットは配達記録郵便での配送となります。

※チケット代金のほかに 400 円(税込)のチケット郵送手数料がかかります。

◆その他◆

※公演に関するお問合わせは、光藍社 担当: 森島まで。

※チケットの価格はすべて税込価格です。

※プログラム・内容・出演者は予告なく変更になる場合があります。ご了承ください。

※未就学児のご入場はお断りしています。ご注意ください。

今回ご紹介させていただいた公演は、全国各地で行われます。機会がございましたらぜひお楽しみください。(特別割引価格の設定はございません。)詳細は光藍社のホームページ <http://www.koransha.com/> をご覧ください! ご紹介した公演以外にも、注目のバレエ、オペラ、コンサートがたくさんあります。ぜひチェックしてみてください!!

JICモスクワ通信Vol.11

ウクライナ・ハリコフ市の中の砂漠



1919 年から 1934 年までウクライナの首都であった、ハリコフ市。5 月の半ば、ハリコフ市の中心にある自由広場を目にし、その広場に砂が 2000 トンぐらい積まれた様子を見てびっくりしました。自由広場の舗道を敷き替えるのでしょうか??

自由広場(旧ゼルジンスキー広場)はハリコフの名物のひとつです。なぜかという、面積が 11.9 ヘクタール、これはヨーロッパ 2 位の広さ、世界では 7 位であるといわれているからです。広場の南にデルジプローム(国立生産会館)という、建築様式が世界でも有名な建物があります。現在、その建物はハリコフ州の役所となっています。自由広場はハリコフの誇りとも言えるのです。冬にはハリコフの彫刻家たちによって広場は「氷の街」となりました。そして今回は「砂の街」になったのです。



ウクライナをはじめ旧ソ連の国々、イスラエル、イランなど 30 人ぐらいの彫刻家が砂像をつくります。6 月 1 日から昔話のヒーローたちが 33 人、自由広場に立ってハリコフ



市を見守るのです。イランの彫刻家、サイード・アフマディは「ウクライナの砂はとても使いやすい。今までイランとトルコで働いたことがあるが、今回が一番楽です。」と語っています。

ただの砂から徐々にヒーローが出来上がってくると、市民たちもわくわくしてきます。興奮して壊すことのないよう、24 時間常に 2 人の警備員がこの広場を見張っています。

この砂の街は 8 月 1 日まで開催されていますので、機会があればぜひハリコフに見に行ってみてください!

(モスクワ トカチェンコ・ドミトリー)

旧ソ連圏にお友達をつくろう!

◆ペンパル募集◆

① Name ② Sex ③ Born(Age) ④ Address ⑤ E-mail ⑥ Occupation, Hobby ⑦ Languages

① **Natalia Popvanova** ② Female ③ 1990 ④ Russia, Siberia ⑤ kiddy@nextmail.ru ⑥ fantasy, photo, music, Japanese culture, picture, design ⑦ Russian, German, English, Japanese

① **Anton Sheyko** ② male ③ 1975 ④ Russia, Moscow ⑤ paleopa@mail.ru ⑥ Travel, Programming, Photographing, Timbering, History, Arts, Cars ⑦ Russian, English

① **Olga Samarai** ② female ③ 1986 ④ Russia, Volgograd ⑤ Sam1710@rambler.ru ⑥ music, cinema, anime, reading, Japanese culture, Japanese language ⑦ Russian, English



① **Alla Melen** ② female ③ 1967 ④ Russia, St.Petersburg ⑤ stayonline@mail.ru ⑥ I like nature and travel. I'm interested in culture, literature, art, music. ⑦ Russian or English

① **Katya Kulagina** ② Female ③? ④ Russia, Electrostal ⑤ kulagina@flexuser.ru ⑥ sports, travel, flower ⑦ Russian, English

① **Marina Khitrova** ② Female ③ 30years old ④ Russia, Chelyabinsk ⑤ marina@konstalin.ru ⑥ I'm doctor. I want to write with Japanese each other. I'd like to learn Japanese. I'm interested in sound of Japanese language. ⑦ Russian, English, Japanese a little

① **Denis Zarubin** ② Male ③ 19 years old ④ Kursk, Russia ⑤ orion-589@yandex.ru, orion-589@mail.ru ⑥ I study at university as the programmer ⑦ Russian, English, German

① **Artem Starcev** ② Male ③ 1976 ④ Russia, Omsk ⑤ starcev-omsk@mail.ru ⑥ Literature(poetry), philosophy, religion(Buddhism), psychology, culture of Oriental countries ⑦ Russian, English

① **Nastya Stolyarova** ② Female ③ 20 ④ Russia, St.Petersburg ⑤ loveyourlife@mail.ru ⑥ Interests: learning foreign languages, Japanese culture, Reiki Usui Shiki Ryoho(wellness technique for a healthy body, mind and spirit), traveling, reading, geology, jazz music... ⑦ Russian, English and a little Japanese



① **Maksim Orishenko** ② Male ③ 35 years old ④ Russia,

Yuzhno-Sakhalinsk ⑤ maksor182@yahoo.com ⑥ fishing, Aikido ⑦ Russian, English

① **Viktor Bardakov** ② Male ③ 1985 ④ Russia, Novosibirsk ⑤ bardakov@nsaem.ru ⑥ Work: software development, I learn Japanese. I like reading, game, cinema and anime ⑦ Russian, English and a little Japanese

① **Igor Shvetsov** ② Male ③ 1980 ④ Russia, Moscow ⑤ weadr@mail.ru ⑥ I know English well. I love Japanese culture, Japanese music, so much. I'd like to visit Japan in future. ⑦ Russian, English

① **Natasha Savchenko** ② Female ③ 1982 ④ Russia, St.Petersburg ⑤ natashkino@gmail.com ⑥ I work at Cinema company. I'm interested in Cinema, Books, Japanese culture and language, anime, tea, game, design, fantasy, music and chess. My dream is to make film in Japan. I will send you my photo with pleasure, and write you about everything you're interested in. ⑦ Russian, English and Japanese a little.

① **Artem Ermalyuk** ② Male ③ 1988 ④ Russia, Vladimir ⑤ ruserafimru@mail.ru ⑥ books, internet games, fantasy, design ⑦ Russian, Japanese, English

① **Tatiana Bivol** ② Female ③ 1981 ④ Russia, Vladivostok ⑤ olesybil@mail.ru ⑥ I am a designer. I like picture, nature. I like to spend time with friends. I have been in Japan once. ⑦ Russian or English

① **Aleksei Startsev** ② Male ③ 1976 ④ Russia, Voronezh ⑤ alexei@webrain.biz ⑥ I work at IT-technology company. Hobby is music (I play the piano, the guitar, and I like listening to music), travel. ⑦ English, Japanese

① **Tatiana Teterina** ② Female ③ 1992 ④ Russia, Cheboksari city ⑤ fosenok@rambler.ru and noir16@mail.ru ⑥ I like to study English and Japanese. I love dog, car, and travel. ⑦ Russian, English, a little bit Japanese

① **Maksim Mikhailov** ② Male ③ 1986 ④ Russia, Moscow ⑤ xedvin@mail.ru ⑥ Japanese culture, language, anime, nature and pet. ⑦ English, Russian and a little bit Japanese



✉メールを出すときには...

手紙は、特に日本語の記載がない場合は、英語かロシア語で書きましょう。日本語の場合でも、簡単な言葉を使いましょう。相手のパソコンでは日本語が文字化けして読めないこともあるので、最初のメールは英語で書くのが無難です。まずは思い切ってトライ! 頑張ってください!

JIC イベント報告

JIC では様々なイベントを開催し、ロシア好きの皆さんとの交流の場を作っています。今回ご参加いただけなかった皆さまも、次回はぜひ！ロシアに興味のある方は、お問合せの上、お気軽にご参加ください。今後のイベント情報は、JIC のホームページでご確認いただけます。

第13回 JICロシアフェスタ in ロシア大使館

恒例のロシアンフェスタも今年で 13 回目でした！毎年お越しくださるリピーターの方、初めていらっしゃる方など、昨年度よりも多くの方が集まってくださいました。受付では多めに用意したプログラムも足りない状態となり、何名かの参加者の方には大変申し訳なかったのですが、コンサートホールの客席がほぼ全席埋っているのを目にし、スタッフとしてはとても嬉しく思いました。日本側の出演団体は、毎回出演していただいている“東京外国語大学ロシア民謡研究会(ルムーク)”、“創価大学ロシア研究会”、“アンサンブルつるぎ”の他、新たに“ユーロプラス 2007”と“インターナショナルバレエアカデミー(ロシア語クラス)”の皆さんにもご出演いただきとても充実した内容となりました。

毎回出演される皆さんの出し物の評判は言うまでもなく、“ユーロプラス 2007”による歌と演奏はものすごい迫力で、文字通り「シビレ」ました！ロシア国歌合唱の際には、客席でロシア人は全員、日本人は何人が起立し、声をそろえていた場面がとても印象的でした。“ユーロプラス 2007”のあとにご出演いただいた、“インターナショナルバレエアカデミー”(ロシア語クラス)の生徒の皆さんはとても愛らしい演技と歌で、前席に座っていたロシア人のおじさんから「マラツィ！(よくやった！)」と声をかけられていました。最後は、ロシア大使館の子供達の出演で幕を閉じました。民族衣装を着た可愛らしい子供たちの歌に、客席の皆さんは大満足されていた様です。ちなみに、毎年子供たちの出演を楽しみに参



加される方も少なくありません！

交流パーティーでは皆さんお待ちかね？のおいしいピロシキを手に、日本語とロシア語がにぎやかに飛び交う光景がみられました。ピロシキは今年も数分で完食となりました。どなたかピロシキを食べそこねてしまった方がいらっしゃいましたら、ここでお詫びさせていただきます・・すみません。

(JIC 東京 藤枝 康子)

舞台の袖という特等席で、それぞれの演目を拝見しました。毎年、素敵なステージなのですが今年はそれに加えて、演目前後の観客みなさんの歓声や反応がとても大きく、温かいものを感じました。ありがとうございました。

(JIC 東京 金井 義彦)



JICフェア in 大阪

5月25日(日)、JIC 大阪恒例の JIC フェアを開催しました。いつものように、在阪の旧ソ連圏出身の方はもちろんのこと、ロシアに関心をお持ちの方々にお集まりいただきました。毎回足を運んでくださる方もおられ、子供たちが年々成長していく様子を見るのもひそかな楽しみです。

さて、今回はメインイベントとして、津軽三味線の奏者として関西を中心に活動していらっしゃる加賀丈子(かがともこ)さんをお招きし、日本を代表する楽器の一つである津軽三味線の音色をご披露いただきました。集まったロシアの方々も初めて聴く音色にじゅっくりと聴き入っていました。加賀さんは全国コンクールの大阪大会でも 4 年連続入賞されるなど輝かしい実績をお持ちで、海外の方を対象に演奏されたのは初めてとのことでしたが、本当に素晴らしい演奏をしていただきました。旧ソ連圏の方々にとっては、新しい日本文化をご体感いただけたのではないのでしょうか？



次回の JIC フェアは、今年の 11 月か 12 月の予定です。ぜひ皆さん、お集まり下さい。

(JIC 大阪 小西 章子)

◆◆編集後記◆◆

日本では梅雨明けが待ち遠しいですね。梅雨といっても晴れた日も多いのですが、今年はなんだか例年より涼しい気がします。我が家ではクーラーも扇風機もまだ登場しておりません。私は外で遊ぶのが好きなので、もっとカーッと暑い日が待ち遠しかったりします。夏にしかできないこと、いっぱいありますよね。皆さんは夏の計画を立てられましたか？

一方ロシアは本格的な旅行シーズンに入りました。今ロシアでは慢性的なホテル不足と好景気により、ホテル料金がびっくりするくらい跳ね上がっています。それに加え世界的な石油価格の高騰で燃油サーチャージだけで 40,000 円超……。旅行するのも手控えてしまう、なんて声も聞こえてきそうですが、そんな中でも多くの方がロシアにご渡航なさっています。白夜、運河クルージングなど、ロシア旅行にも夏の楽しみ方があるんですね。(JIC 大阪 小西章子)

6~9月の予定



- 6月16日(月)9月出発ロシア長期留学生
申込締め切り
- 8月 1日(金)以降、大阪ロシア語講座前期夏休み
(9月5日(金)まで)
- 8月 2日(土)9月出発長期留学生 事前説明会(予定)
13:30-16:00 (東京・大阪)
- 9月初旬 9月出発長期留学生 出発!

最新情報は JIC のホームページに
随時掲載いたします。ご確認ください!

JICのロシア語研修

ロシア長期留学4月生・募集中

- 【期間】2009年4月より 10ヶ月
- 【締切】2009年1月31日
- モスクワ国立大学 \$3870 (授業料 10ヶ月)
- サクト・ペテルブルグ国立大学 €2880 (授業料 10ヶ月)
- ウラジオストク極東大学 \$3040 (授業料 10ヶ月)
- *上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などががかかります。

予価です!



ロシア語個人研修 (随時募集)

- ★モスクワ・ダリパス社 1週間~4週間 (ホームステイ3食付)
- ★モスクワ大学 3週間~長期 (大学寮1人部屋)
- ★G&Rインターナショナル 1週間~長期
(ホームステイ2食付/大学寮2人部屋)
- ★ペテルブルグ・パートナー社 (ホームステイ2食付)
- ★ペテルブルグ大学 1ヶ月~長期
(大学寮1人部屋/2人部屋)
- ★ウラジオストク極東大学 1週間~長期 (大学寮1人部屋)
- ★ウラジオストク極東大学 1週間~1ヶ月 (ホームステイ2食付)
- ★ビジット生活体験コース (ホームステイ3食付)

ロシア語グループ&個人研修 (随時募集)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校。

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力により設立された学校で、18世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



◆ロシア留学旅行相談 (東京・大阪各拠点)◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18時 土曜 10-16時
大阪事務所 平日 10-18時 土曜 (6-9月のみ) 10-16時

留学・研修各種パンフレットは JIC へ
ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に!

~Jクラブ (JIC友の会) のご案内~

JIC インフォメーションを年6回、また JIC のイベント案内をもちろんお届けします。
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。会費は無料です。
国際親善交流センター